

令和元年度病害虫発生予察情報

特殊報第1号

令和元年9月3日
発表：福島県病害虫防除所

- 1 害虫名：ツマジロクサヨトウ
- 2 学名：*Spodoptera frugiperda*
- 3 作物名：飼料用トウモロコシ

4 発生経過

2019年8月29日に、双葉郡葛尾村の飼料用トウモロコシほ場において、チョウ目幼虫による食害を確認するとともに、本県では未発生のツマジロクサヨトウが疑われる幼虫を発見した。

当該幼虫を採取し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、本県未発生のツマジロクサヨトウであることが確認された。

本種は、日本国内では2019年7月に鹿児島県で初めて確認された後、九州全県、沖縄県、山口県、岡山県、高知県、茨城県、千葉県および愛媛県で発生が確認されている。

5 形態

成虫（写真1）は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみ前翅中央部に白斑を持つ。終齢幼虫（写真2）は、体長約40mmで、頭部の逆Y字及び尾部の斑点が特徴である。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。

6 生態と被害状況

本種は、暖地に適応した種（南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産）であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできないとされている。

幼虫が植物の茎、葉（写真3）、花並びに果実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する。

7 防除対策

本県では、当面の間、植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし、発生ほ場においては、別に指定される農薬（表1）を使用しての早期防除や、早期に刈取りし、サイレージにする。

なお、飼料用トウモロコシでとるべき対策は以下のとおりである。

- (1) 多発すると被害が拡大するおそれがあることから、ほ場を良く見回り、幼虫の早期発見に努める。
- (2) 発生ほ場においては、別に指定される農薬の散布を行うか、農薬による防除が困難な場合は、早期に刈取りし、サイレージにする。
- (3) 農薬の使用に当たっては、散布は無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向き、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して、散布予定農薬の種類や散布時期を事前に連絡するなど、農薬の飛散（ドリフト）に留意する。
- (4) 幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに残さを耕耘する。

※農林水産省によると、本虫は、これまで国内で発生しているヨトウムシ類と同様、的確な防除の実施により被害の軽減が可能であるとされている。



写真1 ツマジロクサヨトウ成虫 (左：雄、右：雌) 植物防疫所 HP より引用



写真2 幼虫 (左：頭部拡大、右：尾部拡大)



写真3 被害の状況 (左：寄生の様子、右：被害株)

表1 飼料用とうもろこし

商品名	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
トアロー水和剤CT、サブリナフロアブル	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
エスマルクDF、フローバックDF、エコマスターBT	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
パダンSG水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
スミチオン乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

表2 未成熟とうもろこし

商品名	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
ゼンターリ顆粒水和剤、デルフィン顆粒水和剤、サブリナフロアブル	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
エスマルクDF、フローバックDF、エコマスターBT	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
トアロー水和剤CT	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	—
スミチオン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
デナボン粒剤5	散布	雄穂抽出期～雌穂抽出期 但し収穫21日前まで		4～6kg/10a	2回以内
エルサン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
トレボン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
トレボン粉剤DL	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
パダン水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	700倍	2回以内
パダンSG水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
パダン粒剤4	株の上から均一に散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
マトリックフロアブル	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
プレバソフロアブル5	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
コテツフロアブル	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
ゲットアウトWDG	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
アグロスリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
プレオフロアブル	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
プリンスフロアブル	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
パーマチオン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	4回以内
カスケード乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
カスケード乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	2回以内
フェニックス顆粒水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
アディオオン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内
アクセルフロアブル	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
アニキ乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

表3 ソルガム(飼料用)

商品名	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
オルトラン水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

※上記農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第 29 条第 1 項の規定による防除を行うために使用する農薬として、使用が可能です。

※上記使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

※上記の作物以外で使用可能な農薬については、農林水産省HPを参照。

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-21.pdf

病害虫発生予察情報ホームページにも掲載されています。<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>
 問い合わせ先：福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）
 TEL：024-958-1709 FAX：024-958-1727 e-mail：yosatsu@pref.fukushima.lg.jp